愛知県環境審議会総合政策部会　会議録

１　日時

平成１９年１０月１９日（金）午前１０時～午前１１時５０分

２　場所

愛知県自治センター３階Ａ会議室

３　出席者

委員６名、専門委員３名、説明のために出席した者（環境部職員）１５名

４　議事の概要

環境基本計画の変更について

・事務局

資料１（愛知県環境基本計画の改定の背景）、資料２（第３次愛知県環境基本計画中間まとめ（案）の概要）、資料３（第３次愛知県環境基本計画中間まとめ（案））、資料４（前回の愛知県環境審議会総合政策部会（平成19年6月26日）での主な意見とその対応について）、資料５（環境基本計画改定に係る県民の意見を聴く会における主な意見について）及び資料６（第３次愛知県環境基本計画策定までのスケジュール）の説明

・質疑等

（加藤久和部会長）

まず、資料１の背景について何かあるか。

（加藤雅信委員）

高齢化は、エネルギー消費量やごみ排出量の増加とどう関係するのか。

〈事務局〉

資料３の５ページに記載したが、高齢化が進むことで在宅時間が長くなることなどが考えられる。

（加藤久和部会長）

実証されたものではなさそうである。高齢化によりごみの出し方が変わることはあると思うが、全体のエネルギー消費量にどう関係するか、必要であれば表現を工夫すると良い。

（吉田委員）

高齢化の影響として、地域に資源ごみ回収ステーションが無いと、歩いて行けずに一般ごみとして出すことになり、ごみの量が増えることがある。

（芹沢委員）

高齢化により消費に重点を置いた年齢層が増え、結果的に生産と需要のバランスが崩れることが問題ではないか。

（加藤雅信委員）

生産が落ちてきたらエネルギー増大にはならないと思うが。

（加藤久和部会長）

他にこういう認識では困るという点があれば。

（加藤雅信委員）

地球環境問題と排出権ビジネスに対する県の考え方の方向性はどうか。入れる必要性は無いと考えているのか。

〈事務局〉

排出権取引については世界レベルで検討されている状況であるが、排出権取引を行う際に総量規制のような上限を設けるのか、あるいは排出権をどのように認定するのかが課題になっている。京都議定書で認められている排出権取引の運用については国で検討されているところであり、地球環境問題は愛知県だけで取り組める問題ではないことから、国の状況を見ながら今後精査していきたい。

（加藤雅信委員）

法制度が整備される前に民間がどんどん動いている状況である。ここに入れるかどうかは別問題として、問題意識として考えておいて欲しい。

（加藤久和部会長）

今の時点で環境基本計画に書くのは難しいが、背景として押えておくことになろう。

（井上専門委員）

他の自治体でも中小企業のマーケットなどの勉強している状況なので、もし可能であれば愛知県でも研究をしているとか、前向きのスタンスを入れると良いと思う。

（加藤久和部会長）

個別計画である地球温暖化防止戦略とのすり合わせも必要になる。

（芹沢委員）

排出権ビジネスは、避けて通れない問題ではあるが、長期的に見ると問題の解決にならない。

（加藤雅信委員）

地球全体としての総量規制という意味では合理性がある。

（井上専門委員）

政策の一つとしてありうるという一般論で止め、具体論ではなく前の方でさら

っと記載したほうが良いという意見である。

(加藤久和部会長)

国内問題として見れば、大企業ばかりでなく中小企業レベルでも考えるべきだというような提案もあるだろう。

次に、資料２の概要についてどうか。

(加藤雅信委員)

「あいち環境社会」という言葉がパブリックコメントの資料の冒頭で三回も出てくるのが気になる。

〈事務局〉

一番上の枠の括弧内の説明は取るようにしたい。

(加藤久和部会長)

「あいち環境社会」という言葉の方向性や内容がわからないので、「自然の叡智に学ぶ持続可能な循環型社会づくり」という表現を付け加えたことについてはどうか。

(清水専門委員)

少し長いので「自然の叡智に学ぶ持続可能な社会づくり」でよいのではないか。同じ資料の「施策の方向」の２の「目指す数値目標の例」で効果的・先導的循環ビジネスの創出の１件は、少なすぎる印象があるので良くない。また、「施策の方向」の３と４の記載で重複があるようだが整理をして欲しい。

(芹沢委員)

一番上の枠は取って「あいち環境社会」の枠の中の説明として加えることで足りると思う。

〈事務局〉

「持続可能な」と「循環型」には意味的に重複はあるかもしれないが、県民によっては色々なとらえ方があるので、丁寧に県民に示して反応を見たい。

「目指す数値目標の例」は、施策に関連付けて主たるところにできるだけ一本にまとめるなど見直したい。

(井上専門委員)

目標年度は２２年度が多いが、目標を具体的に掲げるなら年度の妥当性なども検討する必要がある。例えば、ごみの一人一日当たりの量７２０グラムもなかなか難しいので、リサイクルを進めるのが現実的だという議論もある。

(中村委員)

リサイクル分も見込み、本当に処理すべきものに限って考えている。

(加藤久和部会長)

調整は鋭意個別に進めていただくことで良いと思う。

（芹沢委員）

「施策の方向」の３に関して、環境調査センターでも県立大学でも良いが、生物多様性を中心とした自然環境基礎情報の蓄積を検討してもらいたい。

〈事務局〉

資料３の４１ページに自然環境に関する調査研究機能の充実を掲げている。一括管理かネットワークかなど具体的に検討していく必要があると考えている。

（芹沢委員）

どういう方向でいくかの検討だけでも重点課題として入れてもらいたい。

（吉田委員）

資料３の２６ページの「温室効果ガスの排出を抑制し、安定化させる愛知づくり」とあるが、表現がコンパクトすぎる。排出ガスを低水準で押さえこむという意味だと思うが、一般の人には何を安定化させるかがわかりにくい。

〈事務局〉

表現は検討する。

（加藤久和部会長）

「安定化させる」という言葉が必要か検討する。

前回の連携プログラムについて、今回は地域的な視点からのプログラムとしたことについてはどうか。

（清水専門委員）

付属資料１について、計画という限り、施策の柱ごとの①から⑤までに対応する目標が出せるように努力して欲しい。数値目標は現状値との比較があると良い。エコカーの台数も積算根拠があると思うが、現状を踏まえた目標であるべきだ。持続可能な地域づくりプログラムの方が本県らしいと感じた。

（加藤久和部会長）

あくまで環境計画であるのでこのような整理とした。

〈事務局〉

県民から見て分りやすくするため、パンフレットなどで対応していきたい。

（中村委員）

文章に西暦と平成が混在しているので、頭の中で換算しなくても良いように工夫して欲しい。

（井上専門委員）

産業構造から考えると半分位の生産量を占めている中小企業への目配りが欲しい。フロンガスで一つの項目であるので、項目を増やすとか、前の方に記載してもらうなどして、全庁的な推進体制の中で産業政策における環境面の内容が見えるようになると良い。

（加藤久和部会長）

分かりやすくなるかどうかも含めて工夫が必要だという意見だと思う。

それでは、中間まとめ（案）を修正の上、審議会の委員の方々の意見を聴くとともに、県民の意見を聴くことに異議はないか。異議がなければそのようにさせていただく。

以　上